

<研究ノート>

韓国語学習支援ウェブサイト開発に関する研究

呉 大 煥

はじめに

1. 既存サイト利用の問題点
2. 「韓国語レッスン」の開発方向
 - (1)学習者中心の学習内容
 - (2)使用者中心の利便性
3. 「韓国語レッスン」第1章の構成の特徴
 - (1)学習内容
 - (2)学習活動の流れ
 - 1)提示の方法
 - 2)練習活動
 - 3)確認活動
 - (3)使用者の利便性の工夫
 - 1)韓国文化への興味寄せ
 - 2)小窓の設置
 - 3)多様なフラッシュアニメーション
 - 4)可動式メニューバー
 - 5)フラッシュで表現したメディアファイルの利用
4. 今後の開発に関する課題
 - (1)学習管理の側面
 - (2)インターアクションの技術的問題
 - (3)改善策の模索

終わりに

はじめに

本稿は島根県立大学の韓国語教育のための学習支援ウェブサイト開発に関する研究報告である。

本学の韓国語学習者は、韓国人または韓国の文化やメディアと接する機会が少ないという環境的な条件を持っている。そのため学習した韓国語を教室の外で使うような体験をする機会が殆どない。授業時間以外の時間でも韓国語の実践的な練習ができるようにインターネットを利用し、仮想体験を通じて学んだ言葉の使用やその確認を図ることができるように、学習支援用ウェブサイトの開発の必要性があった。

現在開発しているウェブサイトは、韓国語の教室授業の進度に合わせて学習者に学習

項目の復習や予習の機会を与えることを目的にしている。そして、学習者が興味と集中力を持ってウェブサイトを利用することができるように、ユーザーインターフェースの改善に焦点を置き、教室の授業と連携できるようにした。

1. 既存サイト利用の問題点

既に開発されている日本国内の韓国語学習ウェブサイトの中で代表的なものに、福岡大学の「ハングルマダン」と同志社大学の「韓国朝鮮語を学ぼう」がある。この二つのウェブサイトは優れていて、学習者にとって大変有益なものではあるが、本学の学習者が利用するには問題点があった。

「ハングルマダン」は、会話教育を前提にした教授法をもとにしている構成ではなく、文字を学んで文法の学習を経て、究極的には読解を可能にすることを目的にしているとみられる。そのため、Learner based approach からみると、紙で作られた教材の写しのよう感じられる。しかも練習活動が全くないため、学習内容とその場で確認することができないという弱点がある。

「韓国朝鮮語を学ぼう」は、同志社大学の教材である「実用韓国語」を使っている学習者の学習支援を目的にしている、練習問題が沢山提示されている、とても優れたウェブサイトである。しかし、その教材を利用している学習者にはとても役に立つと思われるが、他の教材を利用している学習者には利用し難いものである。故に、本学の韓国語教育が志向している目標とは違うため、本学の学習者にとっては使いにくいところがあると思われる。

既存の韓国語学習ウェブサイトを利用するにはこのような問題点があった為、本学の韓国語カリキュラムに合う韓国語学習支援ウェブサイトが必要になった。

2. 「韓国語レッスン」の開発方向

「韓国語レッスン」とは本学の学習者を対象に開発しているウェブサイトの名称である。平成19年度の1年間で、第1章の「韓国語の文字と発音」を完成させるのを目標にして開発中であり、12月現在、全6節の構成中4節までは完成されている。

「韓国語レッスン」は、主に学習者中心の学習内容と使用者中心の利便性という二つの面に重点を置いて開発している。以降ではこの側面について簡単に述べる。

(1) 学習者中心の学習内容

実際の教室の授業とウェブ上の学習の大きな違いは、学習内容の伝達者である教師の有無である。実際教室では教師が教材の内容を取り上げながら説明することができ、学習項目を提示し、指導することができる。しかし、ウェブ上では学習者が一人でそのウェブページの構成を把握し、自ら学習していくようになる点が大きな違いである。その時、学習者が簡単に自分の課題を見つけ、学習活動を行うことができるように学習内容を構成しておかなければならないのである。

そのため、「韓国語レッスン」では学習内容の提示順をはっきりと明示した。主な提示順は次の通りである。

- ①学習内容の提示
- ②学習内容の練習

③学習内容の応用練習

④練習活動（活動の評価）

例えば、単母音の文字と発音の習得が目標である第1章の1節では、学習者の母語である日本語の母音の音から話題を取り出し、両言語の音の比較してみるように韓国語の発音を提示する(①)。この比較という活動を通じて、学習者は自ら言葉の音の違いを考え、違うところは何かを推測するようになる。

次に、同じ発音と違う発音の説明を見て、その推測の正しさを確認できるようになる。注意点を確認しながら韓国語の音の実際の発音を聞いて、自分で発音して練習するように指導する(②)。

応用練習(③)では、実際に韓国語単母音の発音の様子を動画で見ながら練習することができる。各単母音の練習だけではなく、隣接している単母音の練習も動画を見ながら練習するように指導する。

最後に、クイズ形式の練習活動を通じて、1節で学んだ単母音について確認活動をする。以上のように、学習項目を構成し、学習者が正しい発音を習得するまで自習できるようにした。

(2) 使用者中心の利便性

印刷物と異なるウェブ上の教材は、使用者の使い勝手が重要である。メインページとサブページとのレイアウトの一貫性やコンテンツの差別化など、使用者のための工夫が必要である。そして、一般的な学習サイトは学習項目がずらりと載せられるため、一つのウェブページが長くなるという問題点を持つことが多い。このような問題点を解決しなければならない為、節をわけて構成するようにした。そうすると今度はサブページが増え、ページの上下移動が頻繁に行われるようになって、学習者が使いにくくなるという問題が生じる。

このような問題解決のため、「韓国語レッスン」ではジャヴァスクリプトを利用して各学習段階の内容をページ内に小さい窓を設けて明確にし、同時にスクロールダウンやウェブページの移動の回数を減らすことができるように可動式メニューバーを設けておいた。動画や音声などのメディアを同時に使うことが大きなメリットであるウェブ教材の場合、使用者のネットワーク使用環境を考慮しなければならない。「韓国語レッスン」はADSL以上の回線を利用することを勧告し、学校内ネットワークの環境や自宅のADSLの環境でも無理がないように、動画や音声ファイルをサーバーからダウンロードする方式ではなく、小さいサイズのフラッシュアニメーションを利用し手軽に利用できるようにした。

3. 「韓国語レッスン」第1章の構成の特徴

(1) 学習内容

第1章は韓国語の文字と発音の教育に関する内容で、学習内容の構成のもとになったのは呉大煥(오대환 2003)の結果である。その結果を本学の実情に合わせて構成した。

まず、12月現在開発されたサイトマップは次の通りである。

サイトマップ	
1. 単母音字 = 01. 日本語との比較 / 02. 韓国語の単母音字 / 03. 発音練習 / 04. 練習活動	
2. 平音子音字① = 01. 平音子音字① / 02. 発音練習 / 03. 単語の読み練習 / 04. 練習活動	
3. 平音子音字② = 01. 平音子音字② / 02. 発音練習 / 03. 単語の読み練習 / 04. 練習活動	
4. 二重母音字 = 01. 韓国語の二重母音 / 02. 発音練習 / 03. 単語の読み練習 / 04. 練習活動	
5. 激音と濃音	
6. パッチム	

この図でわかるように第1章の小節は1節の単母音から6節のパッチムまでになっている。

1節では、韓国語音節の核になる単母音の習得を目標にした。韓国語には日本語の単母音と同じ音価を持っている単母音と、日本語では同じ音のように聞こえる韓国語の単母音があるため、その違う音価を持っている単母音の習得にポイントを置いた。

2節では、子音の中で激音や濃音の対立音を持っている平音だけを提示し、その習得を目標にした。2節で学習する子音は、韓国語の発音では環境による音韻変動が多い音で、重要性があるからである。

3節では、平音子音の中で、音の音韻変動がない子音をまとめて提示した。

4節では、日本語より豊富な韓国語の二重母音の習得を目標にした。二つの母音の組合せで一つの二重母音になるため、その組合せが分かりやすいように提示した。

5節では、子音の中で、激音と濃音の習得を目標にした。この激音と濃音を2節の平音との対比を通じて分かりやすく説明し、実際発音する方法の習得ができるようにした。

韓国語の音節構造は日本語と異なり、音節末に子音がある場合がある。6節では、その音節末子音であるパッチムの習得を目標にした。その音節末子音の音や表記、連音規則などをこの6節で習得できるようにした。

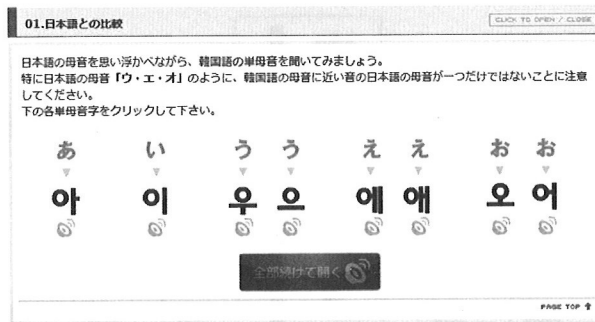
(2) 学習活動の流れ

ウェブページの学習項目は「提示→練習→確認活動」の順で構成されている。最後の確認活動を通じて一つの節の完結を図っている。

1) 提示の方法

1節の構成の中で、重要ポイントになっているのは、母音の場合は文字ではなく音の提示から始まっている点である。そのように提示した理由は、この段階の教育目標を音の習得に置いているからである。勿論文字の習得も学習目標に含まれているが、音を表記する手段である文字の習得は二次的な目標であり、音の習得を優先的に提示することにした。音の習得を優先するのは、今後の「話し (Speaking)」というコミュニケーションスキル

の習得を前提にしているからである。



2節では、既習した単母音を利用し、平音子音を提示した。この2節では、子音字はいつも母音字とともに書かれるという特徴を生かして、子音と母音を組み合わせた音節の形で提示した。特に日本語の「タ行」との違いが重要であるため、注意書きを添付して発音の注意を喚起した。



3節では、2節と同じように子音字の学習であるため、2節と同じ形式の提示方式にした。

4節では、韓国語の二重母音の特徴を明らかにして、二つの系統の二重母音の種類を分けて提示した。それと同時に、二重母音の表記に利用される文字の特徴についても注意書きとして記録しておいた。

01. 韓国語の二重母音 CLICK TO OPEN / CLOSE

1. [i] から始まる二重母音：母音子の特徴 ⇒ 単母音字に線を1本加えた形

2. [w] から始まる二重母音：母音子の特徴 ⇒ 二つの母音子の組み合わせの形

3. その他

PAGE TOP ↑

5節と6節は今開発中であるが、5節では平音と比較しながら激音と濃音を提示し、その音の差がすぐ分かるように提示する予定である。6節では、これまで学んだ子音字が全部パッチムとして使われるということから始め、音節末子音の音としては7つの音があるということを提示し、その発音を紹介する予定である。

2) 練習活動

練習活動では、提示された各音を文字と一緒に覚えることができるようにし、各音の練習と実際の単語を利用した単語読み練習も出来るようにした。

1節の練習活動は、まず各単母音の母音字を提示しながら、その母音字をクリックすると各単母音の音声が出る。その音声を聞いて発音を真似し、母音の発音を認識して練習するようにした。同時に、各母音字の書き順がアニメーションで見られ、その文字の書き順も学べるようにした。

その後、動画を利用して、母音の調音位置や調音方法を確認する練習活動を行い、より正しい発音ができるようにした。そして、一つの単母音を長く発音する練習を用意し、各単母音の発音をする際の舌や唇の形を自ら確認できるようにした。最後に発音の位置が隣接している母音との関係を身につけるため、その隣接母音の練習をする機会を用意した。

02.韓国語の単母音字

文字を中心に母音字の発音に慣れるようにしましょう。
日本語は一文字が一つの音節になっていますが、韓国語は必ず子音字と母音字を組み合わせないと音節の表記が出来ません。母音の音節を表記するときも、**音節がない子音字である「ㅇ」**を子音字の位置に書いて母音の音節の表記をします。
各母音を発音する時、**唇の形や舌の位置**に注意しましょう。

ㅏ ㅑ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ

아

ㅏ: 日本語の「あ」と同じ発音で大丈夫です。
ㅑ: 日本語の「い」と同じ発音で大丈夫です。
ㅓ: 日本語の「う」を発音する時より唇を丸くして下さい。この点は特に注意して下さい。
ㅕ: 日本語の「う」を発音する時より唇を「ㅏ」の形のように、横に広くなる点に注意して下さい。
ㅗ: 日本語の「え」と同じ発音で大丈夫です。
ㅛ: 日本語の「え」より口をもっと大きく開けて発音しなければなりません。
最近の韓国の若い人達も正確に発音していないので、「ㅗ」と同じように発音しても大丈夫です。
ㅜ: 日本語の「お」を発音する時より唇を丸くして下さい。この点は特に注意して下さい。
ㅠ: 日本語の「お」の発音する時より唇を広げて「ㅏ」の形のように広げて下さい。この点は特に注意して下さい。

PAGE TOP

03.発音練習

1. 下の映像を見ながら、母音の発音を確認してみましょう。
練習しながら、韓国語の各母音の特徴である「**唇の形**」や「**舌の位置**」などを考えてください。(3回続けて)

 오

아 이 우 오 에 예 오 어

2. 下の映像を見ながら、母音の発音を確認してみましょう。ここでは母音を「**長く**」発音します。
子音と異なり、母音は長く発音することが出来ます。母音を「長く」発音する時各母音の特徴である**唇の形**や**舌の位置**の確認が出来ます。練習しながら「**唇の形**」や「**舌の位置**」などを確認してください。(3回続けて)

 에

아 이 우 오 에 예 오 어

3. 下の映像を見ながら、隣接している母音の発音を試してみてください。
その時、連続する母音を発音している自分の「**唇の形の変化**」や「**舌の移動の軌跡**」を考えてください。
(各2回ずつ続けて)



이 > 으 > 우 이 < 에 < 애 < 아 우 > 오 > 어 > 아

PAGE TOP

2節と3節では、子音字と母音字との音節形を提示し、既習の母音字との組合せでどのように発音されるかを日本語の50音表のようにした。

02.発音練習 CLICK TO OPEN / CLOSE

下の音声を聞きながら、韓国語の平音子音字の発音練習をしましょう。

カ行の子音	START	가 기 구 그 게 개 고 거
タ行の子音	START	다 디 두 드 데 대 도 더
パ行の子音	STOP	바 비 부 브 베 배 보 버
チャ行の子音	START	자 지 주 즈 제 재 조 저
サ行の子音	START	사 시 수 스 세 새 소 서

PAGE TOP ↑

スタートのボタンをクリックすると、四角い表示が順番に移動し、発音の音声が出るようになってきているため、文字と発音を、視覚的にも聴覚的にも同時に習得することができると思われる。

2節からは、実際の単語を発音練習に使い、単母音と子音だけで構成された単語を読む練習を設けている。この練習では各単語をクリックすると、単語ごとに別の声が出るようになっていて色々な声の発音を聞くことができる。単語の意味もクリックしている時だけあらわれるようにして、単語の学習にも役に立つようにした。注意書きとしては、母音のあとに続いてくる子音の音韻変動（有声音化）を知らせて、実際の発音を理解させようとした。

03.単語の読み練習 CLICK TO OPEN / CLOSE

平音の子音字の中で、「カ・タ・パ・チャ」行の4つの子音字だけは母音の後に続く時は、日本語の濁音のように有声音化します。例えば、「[마기]」は「アキ」ではなく、「アキ」になります。
次の単語を聞いて発音してみましょう。各単語をクリックしてください。

아기	가구	고기	거기				
도구	구두	기도	드디어	어디			
두부	비	^海 바다	보다	배우			
자주	저기	바지	부자	지구	가지	거지	어제
수도	다시	소고기	시기	도시			

PAGE TOP ↑

3節は2節と同様である。

4節では、韓国語の二重母音を系統別に示し、二つの母音が連続して発音され、二重母音になる仕組みを見せた。同時に、二重母音の各文字の発音の特徴や発音上の注意点も知らせようとした。

CLICK TO OPEN / CLOSE

02. 発音練習

1. [i] から始まる二重母音

야 여 요 이 유 우 예 애

◆ 参考
 [애, 예]は同じように発音しても構いません。
 特はこの二重母音は子音と一緒に音節を構成する場合、単母音で発音しても良いです。
 시계 [시계], 해수 [해수], 개 [개]

2. [w] から始まる二重母音

와 워 위 웨 왜 외

◆ 参考
 오-이 = 외 / 오-애 = 왜 / 우-애 = 왜
 これら三つの二重母音の表記は異なりますが、実際の発音は全て一緒です。
 これらの二重母音字は綴りと発音を特に気をつけて覚えてください。
 尚、単語の中で現れるとき、綴りの間違いが良くあるので気をつけてください。
 [외] は別の母音を単母音で発音することもあります。歯を丸めて「シ」と発音して下さい。

3. その他

의

◆ 参考
 この二重母音字は非常に不安定な発音なので、違う単母音で発音しても良い場合が多いです。
 i) [의] と発音しても良い場合：日本語の助詞の「の」の機能を持つ場合（これは次章で学びます）
 누나의 이야기(姉の赤ちゃん) [누나에 이야기]
 ii) [의] と発音しても良い場合：単語の語頭ではない場合。語頭ではいつも文字通りに発音します。
 회의 / 의회, 의사 / 사의
 iii) [의] と発音しても良い場合：子音と一緒に音節を構成する場合。
 회사, 무의

PAGE TOP ↑

この節にも、単語を利用した読み練習を用意した。既に学んできた子音字と母音字、そして新しく学んだ二重母音字で構成された単語を利用し、単語の読み練習ができるようにした。この練習を通じて既習の子音字や単母音の復習ができるように工夫した。

CLICK TO OPEN / CLOSE

03. 単語の読み練習

次の単語を聞いて発音してみましょう。各単語をクリックしてください。

야구 여가 여기 겨우 교가 요구 과자

유도 뒤 ^뽀더위 벼 스웨터 쉬다 의사

모기 유리 요리 교류 휴가 혀 호도

희다 회사 후회 의회

PAGE TOP ↑

今開発中の5節では平音との相違点を中心に、激音と濃音の発音ができるような練習を用意する予定である。単語の読み練習では、日本語では同じ音のように聞こえる激音や濃音の子音が、韓国語では意味弁別の機能を持っているのが分かるようにする予定である。

6節もまだ完成されていないが、練習活動では音節末の子音の発音の区別や実際の発音ができるような活動として構成する予定である。単語読み練習では、色々な音韻変動が行われるのを簡単な規則と共に練習活動を通じて身につけるようにする予定である。

3) 確認活動

練習活動を通じて身につけた各文字と発音を確認する為、確認活動を紹介します。

1節では、単母音の文字と発音を連携して覚えているのかを確認する。そして、二つの母音の連続を正しく聞き取れるかを確認する活動を行う。

04. 練習活動

1. 次の単母音を聞いて正しい表記を選んでください。

< PREV この単母音は? NEXT > NO. 2 / 8

아 이 우 으 에 ऐ 오 어

2. 次の音を聞いて、正しい表記を当ててみましょう。

Q1. ① 아이 ② 어이 Q2. ① 아이 ② 어이

Q3. ① 어이 ② 오이 Q4. ① 아으 ② 아우

PAGE TOP ↑

2節と3節では、まず前節で学んだ単母音の習得が確認できる問いを通じて復習をする。次の問いは、発音される音声を聞いて正しい表記の単語を探す練習をする。この過程で、学習者は音の識別や文字の識別能力が鍛えられると予想される。スピーカ模様のアイコンをクリックすると、自動的に音声が出て問題が出題されるので、正しい表記を当てることができれば次の問題に自動的に進むようになるが、間違った場合は次の問題に進むことができなくなる。

この段階では単語の意味よりは発音と文字の識別に重点を置いているため、意味を問う問題の出題はない。

04. 練習活動

1. 次の音を聞いて正しい表記を選んでください。

Q1. ① 고기 ② 거기 Q2. ① 가지 ② 거지

Q3. ① 도시 ② 두시

2. 次の単語の中から、提示される音の単語を探してください。

< PREV この単語は? NEXT > NO. 2 / 27

아기 가구 고기 거기

도구 구두 기도 드디어 어디

두부 비 바다 보다 배우

자주 저기 바지 부자 지구 가지 거지 어제

수도 다시 소고기 시기 도시

PAGE TOP ↑

3節も、2節の確認活動と同じである。

4節では、まず二重母音の各文字と発音の習得の問いを通じて、習得状況を確認するようにした。次の活動としては、単独の発音ではなく、他の音節と一緒に聞こえた場合の二重母音の識別力を確認することになる。最後に、前節の単語を利用した確認活動と同様に、音を聞いて正しい表記を選ぶ練習をする。

まだ開発中の5節と6節の確認活動も、同じ形式にする予定である。まず、学習目標である音の確認と、類似している音との識別や正しい表記を探す活動を用意する予定である。



(3) 使用者の利便性の工夫

ウェブサイトの使用者である学習者がもっとやさしく学習するためには、簡単な操作で利用できるような環境を作る必要がある。そのため、前にも述べたような技術を利用し、利便性を図ってみた。

1) 韓国文化への興味寄せ

韓国語を学ぶ学習者がもっと韓国の文化にも興味を持てるように、ウェブページのタイトルの部分に韓国の文化に関する写真を入れてみた。韓国の文化というと歴史がある伝統的なものを想像しやすいが、今回は美しい伝統を持っているものだけではなく、日常的な韓国人の生活ぶりも取り入れ、エキゾチックな対象ではない同じ人間社会であることを見せようとした。

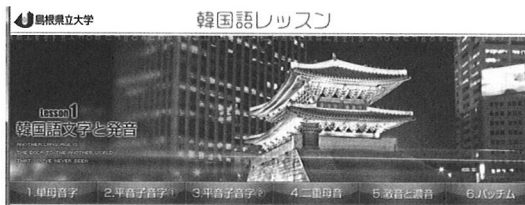
伝統文化が見られるものが3枚、日常生活が見られるものが3枚、文化遺産の現代の様子が分かるものが1枚、計7枚の写真が順次に替わるようにフラッシュ効果を利用し、サイトを開くたびに現れるようにした。



この風景は朝鮮時代の官服の着てその時代の宮中祭礼を行う場面である。



この風景はソウルの夜市場の屋台の様子である。現在の日常的なものを見せる写真である。



この写真の風景は、韓国の国宝1号である「南大門」の夜の風景である。



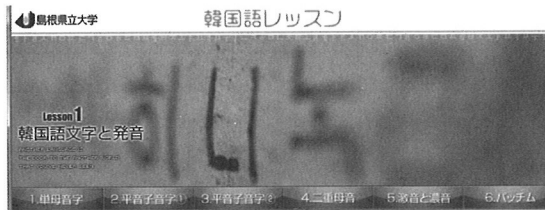
この写真は、多くの韓国の人々が毎日利用するソウル地下鉄の通路の写真である。



この写真は、ソウルにある朝鮮時代の宮殿のある建物の屋根の写真であり、飾りの色の使い（彩色）が美しいといわれる「タンチョウン（丹青）」の写真である。



この写真は、雨の日にも関わらず、市場でチヂミとマッコリ（濁り酒）を食べている人達の様子である。（韓国の食文化が垣間見られる風景）



この写真は、朝鮮時代の書籍に記録されたハングル文字のもので、今は使わない、なくなった文字などが見えておもしろい写真である。

このように過去と現在の韓国のイメージを通じて、学習者が韓国の文化にも興味を持つようにした。

2) 小窓の設置

前の2.2節で簡単に述べたように、利便性のため、ジャヴァスクリプトを利用してメインページの中に小窓を設置し、サブページへ移動することを避けるようにした。



1 節の様様であるが、01のような番号が付いているのが各小窓である。その番号が付いているバーをクリックすると下のように窓が開き、その内容の利用ができる。

The screenshot shows the website interface for 'Korean Language Lesson' (韓国語レッスン) at Shimane University. The main navigation bar includes 'HOME' and 'SITE MAP'. Below the header, there is a banner for 'Lesson 1 韓国語文字と発音' with the subtitle 'ANOTHER LANGUAGE, THE DOOR TO THE ANOTHER WORLD THAT YOU'VE NEVER SEEN'. A horizontal menu contains six items: '1. 単母音字', '2. 平首子音字', '3. 平首子音字?', '4. 二重母音', '5. 激音と震音', and '6. ハッチム'. On the left, there is a sidebar with a '単母音字' image and a list of items: '01. 日本語との比較', '02. 韓国語の単母音字', '03. 発音練習', and '04. 練習活動'. The main content area is titled '1. 単母音字' and contains a sub-section '02. 韓国語の単母音字'. This section includes a large Korean character '아' and a list of phonetic notes in Japanese. At the bottom, there are buttons for '03. 発音練習' and '04. 練習活動', and a navigation arrow pointing to '次節・2. 平首子音字1ページへ行く'.

この図は02の小窓だけを開いた模様である。01の確認が終わったら番号のところをクリックして窓を閉めることができるので、スクロールダウンする必要がなくなる利点がある。勿論小窓を全部同時に開けておくことも可能なので、全体の内容を確認したい場合は次の図のように開いておくことも可能である。

馬根東立大学
韓国語レッスン
HOME | SITE MAP

Lesson 1
韓国語文字と発音

1. 単母音字
2. 平音子音字
3. 平音子音字
4. 二重母音
5. 激音と韻音
6. ハンナム



- 01. 日本語との比較
- 02. 韓国語の単母音字
- 03. 発音練習
- 04. 練習動画

1. 単母音字

本課の目標
韓国語の単母音字を中心に、文字と発音を示すことを目標にします。下の各項目をクリックしましょう。

01. 日本語との比較

日本語の母音を思い浮かべながら、韓国語の単母音を聞いてみましょう。特に日本語の母音「ウ・エ・オ」のように、韓国語の母音に近い音の日本語の母音が一つだけではないことに注意してください。下の各単母音字をクリックして下さい。

あ	い	う	う	え	え	お	お
아	이	우	으	에	애	오	어

> 次項へ移動 <

PAGE TOP ↑

02. 韓国語の単母音字

文字を中心に母音字の発音に慣れるようにしましょう。日本語は一字が一つの音節になっていますが、韓国語は必ず子音字と母音字を組み合わせた音節の表記が出現します。母音の音節を表記するときも、**線画がない子音字である「ㅇ」**を子音字の位置に書いて母音の音節の表記をします。各母音を発音する時、**線の形や舌の位置**に注意しましょう。



아: 日本語の「あ」と同じ発音で大丈夫です。
 이: 日本語の「い」と同じ発音で大丈夫です。
 우: 日本語の「う」を発音する時より唇を丸くして下さい。この点は特に注意して下さい。
 으: 日本語の「う」を発音する時より唇を「い」の形のように、横に広げる点に注意して下さい。
 에: 日本語の「え」と同じ発音で大丈夫です。
 애: 日本語の「え」より口をちょっと大きく開けて発音しなければなりません。最近の種類の若い人達も正確に発音していないので、「에」と同じように発音しても大丈夫です。
 오: 日本語の「お」の発音する時より唇を丸くして下さい。この点は特に注意して下さい。
 어: 日本語の「お」の発音する時より唇を広げて「あ」の形のように広げて下さい。この点は特に注意して下さい。

PAGE TOP ↑

03. 発音練習

1. 下の映像を見ながら、母音の発音を確認してみましょう。練習しながら、韓国語の各母音の特徴である「**唇の形**」や「**舌の位置**」などを考えてください。(3回続けて)



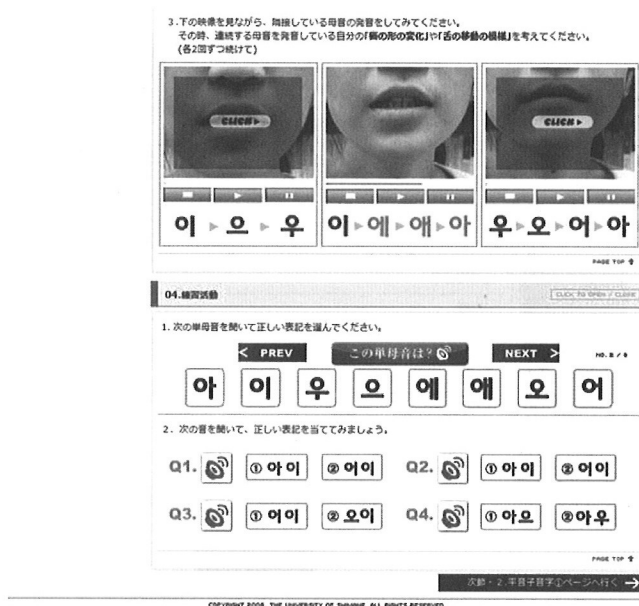
아 이 우 으 에 애 오 어

2. 下の映像を見ながら、母音の発音を確認してみましょう。ここでは母音を「**長〜く**」発音します。子音と異なり、母音は長く発音することが出来ます。母音を「**長く**」発音すると各母音の特徴である**唇の形や舌の位置**の確認が出来ます。練習しながら「**唇の形**」や「**舌の位置**」などを確認してください。(3回続けて)



아 이 우 으 에 애 오 어

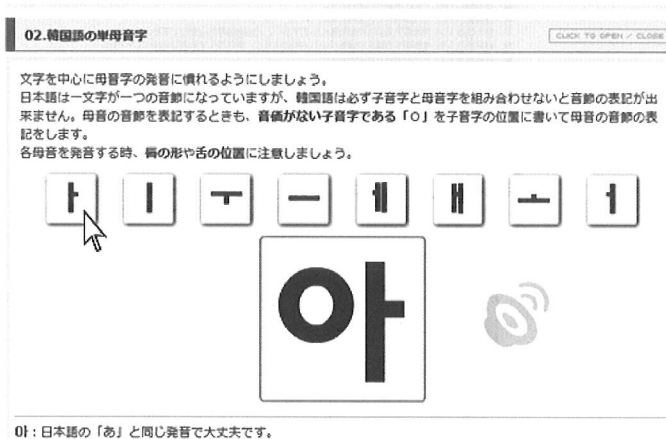
- 125 -



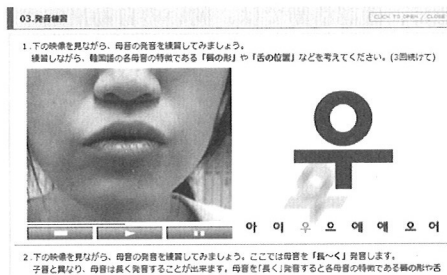
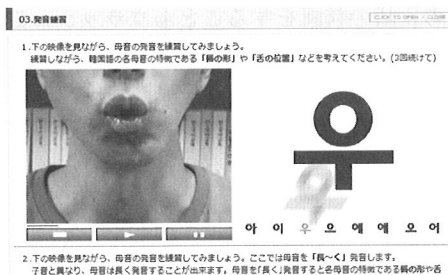
3) 多様なフラッシュアニメーション

多様なフラッシュアニメーションを利用して、学習の進みや正誤の判断機能を作り上げた。

例えば、文字をクリックすると音声と文字の書き順がフラッシュで表れ、学習者に学習内容を見せるようにした。



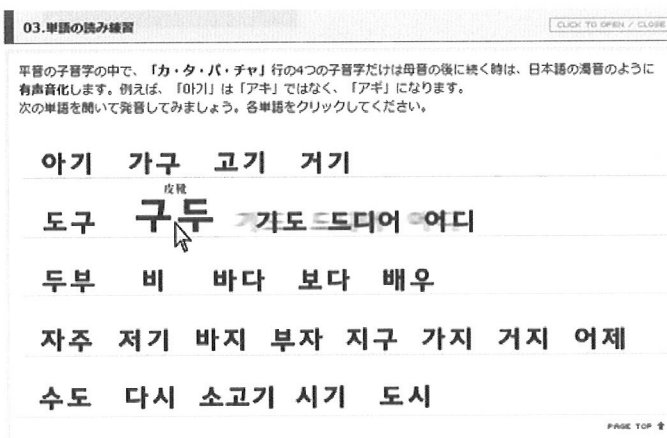
動画を利用するときも、その動画の隣に文字が現れるようにして、動画で出ている音声はその文字の発音であることを示した事と、その音声を長く発音する場合は文字も横に伸ばし、音声の出現時間と同じ時間視覚的に見ることができるようにした。



連続した発音の練習の場合は、教室では教師が指示することをアニメーションで指示できるようにした。スタートのボタンをクリックすると、最初の文字から順番通り四角い表示が横に移動しながら各文字の音声が出るようにして、教師の役割の代わりに指示ができるようにした。



単語の読み練習の場面では単語をクリックすると、その単語が拡大されて、単語の上に意味が現れ、同時に音声の実現を表現することができた。



他に、確認活動では、問いの自動出題や答えの正誤の判断をすることもフラッシュ技術を利用して表現した。

04.練習活動 CLICK TO OPEN / CLOSE

1. 次の音を聞いて正しい表記を選んでください。

Q1.  ① 고기 ② 거기 Q2.  ① 가지 ② 거지

Q3.  ① 도시 ② 두시

2. 次の単語の中から、提示される音の単語を探してください。

< PREV この単語は? NEXT > No. 3 / 37

아기	가구	고기	거기				
도구	구두	기도	드디어	어디			
두부	비	바다	보다	배우			
자주	저기	바지	부자	지구	가지	거지	어제
수도	다시	소고기	시기	도시			

PAGE TOP ↑

次問・3. 半角子音字ページへ行く →

04.練習活動 CLICK TO OPEN / CLOSE

1. 次の音を聞いて正しい表記を選んでください。

Q1.  ① 고기 ② 거기 Q2.  ① 가지 ② 거지

Q3.  ① 도시 ② 두시

2. 次の単語の中から、提示される音の単語を探してください。

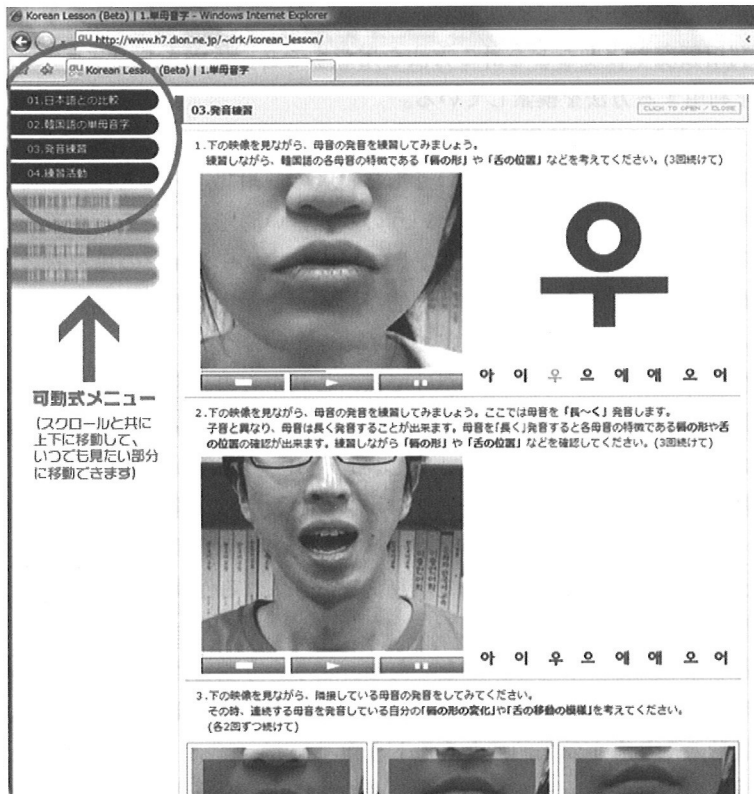
< PREV この単語は? NEXT > No. 3 / 37

아기	가구	고기	거기				
도구	구두	기도	드디어	어디			
두부	비	바다	보다	배우			
자주	저기	바지	부자	지구	가지	거지	어제
수도	다시	소고기	시기	도시			

PAGE TOP ↑

次問・3. 半角子音字ページへ行く →

4) 可動式メニューバー



学習者が利用したい他の小窓に移ることをより便利にするため、可動式メニューバーを設置した。

5) フラッシュで表現したメディアファイルの利用

音声ファイルや映像ファイルをフラッシュにしたため、メディアファイルのダウンロードの時間を短縮することができ、もっと自由にメディアファイルを利用することができるようになった。

以上のように、フラッシュやジャヴァの技術を利用することにより、ウェブページの利用における利便性を改善することができた。

4. 今後の開発に関する課題

「韓国語レッスン」は現在開発途中のウェブサイトであるため、まだ実際の使用結果について報告することができない状態である。そして現在は、第1章の段階しか出来上がっていないので、第2章からの学習内容面と利便性の面の開発という大きい課題が残っている。

また、第1章だけでも学習者の使用様態を確認しながら改善するところがたくさん出てくると思われる。第2章からの開発の問題は後にして、第1章の今後の問題点として予想されるのは次のような内容である。

(1) 学習管理の側面

学習者に「韓国語レッスン」の利用を勧め、その利用をどのように管理するかという問題がある。利用頻度や程度などを計る方法を用意する必要があると思われ、Moodle などの LMS を利用する方法を模索している。

(2) インターアクションの技術的問題

今の状態では、学習者からの問い合わせや学習者の使用間違いなどについての指導などがインターネット上では不可能であるというのが大きい問題点である。今後、こういう問題を解決するために、eメールやBBSなどのコミュニケーションの場を設けなければならないのであるが、時間と人力という物理的な問題がまた生じる可能性があるため、対策探しが難しい状態であるというのが現実である。

今のような片方向のウェブサイトだけでは、これからの教育の効果は期待できないため、教室の授業などを通じて、「韓国語レッスン」の利用者になる本学の学習者との双方向システムを作っていくつもりである。もし、Moodle の利用が可能になれば、ウェブを利用した教材と学習者間のインターアクション及び教室授業を利用した教師と学習者間のインターアクションだけではなく、ウェブ上での学習者間のインターアクションも可能となると予想されるので、Moodle を積極的に取り入れる作業が必要であると思われる。

(3) 改善策の模索

まだ使用者からのフィードバックがないため、どういう改善点があるのかもわからないまま、改善策を述べるには無理があるが、予想できるのは次のような点である。

- ① 練習活動のやり方が効果的かどうか
- ② 確認活動の内容が斬新であって、学習者の習得状況をうまく反映できるのか
- ③ 利便性のため取り入れた技術が役に立っているかどうか

等の問題点が現れると予想されるので、これからもこういう問題が発生しないよう改めて学習者の目線から検討する必要があり、改善していく必要があると思う。

終わりに

以上「韓国語レッスン」の現段階までの開発に関することを整理してみた。

韓国語の文字と発音を全6節の構成にして、各節に練習活動及び確認活動を入れ、学習者自ら練習し確認することを図ってみた。このウェブサイトをもっと便利に楽しく利用できるように、ジャヴァやフラッシュアニメーションなどを利用し、多様な表現方法を設けておいた。

しかし、第1章は韓国語入門の段階に過ぎないため、今後の段階をどのように開発していくのが学習者が興味を持って、やる気を出して韓国語の学習を続けられるように動機付けるきっかけになると思われる。今後、より効果的なウェブサイト開発のために、前述した問題点を解決する方法を研究していくつもりである。

参考文献

- エミットジャパン編（2005）『Web CT：大学を変える eラーニングコミュニティ』（東京電機大学出版部）
- 吉田文、田口真奈編著（2005）『模策される eラーニング』（東信堂）

- 鄭仁星、久保田賢一編著 (2006) 『遠隔教育と e ラーニング』 (北大路書房)
- 井上博樹、奥田晴彦、中田平 (2006) 『ムードル入門』 (海文堂)
- Badrul H. Khan (강명희, 이미화, 송상호編訳) (2005) 『E-Learning Strategies』 (서현사)
- Kathleen M. Iverson (심미자訳) (2006) 『E-Learning Game』 (아카데미 프레스)
- Ruth Colvin Clark, Richard E. Mayer (조일현 외訳) (2006) 『E-Learning and the Science of Instruction』 (아카데미 프레스)
- 김영만 (2007) 『인터넷시대의 한국어 교육』 (한국문화사)
- 오대환 (2003) 「일본 대학의 한국어 발음 교육」 (연세대학교 한국어학당 『외국어로서의 한국어 교육』 Vol. 28 pp. 111-144)

キーワード：韓国語学習支援ウェブサイト 学習者中心 利便性

(OH Daewhan)

